

H O K K A I D O I H O

北海道医報

2

月号

2023.2.1
第1253号



北海道 美の遺産 木田 金次郎 『冬の漁港』 北海道立函館美術館 所蔵

CONTENTS

北海道医報
令和5年2月1日 第1253号

指標／プログラム医療機器 (SaMD)	佐古 和廣	3
医の倫理綱領		10
報告／令和4年度全国医師会勤務医部会連絡協議会	水谷 匡宏	11
報告／地域医療に関わる地域別意見交換会 旭川市医師会	笹本 洋一	14
報告／令和4年度病院管理研修会	笹本 洋一	16
報告／令和4年度北海道病院団体懇談会	笹本 洋一	18
日医報告／令和4年度家族計画・母体保護法指導者講習会	晴山 仁志	22
投稿／北海道警察医会の今後の方針と日本警察医会	沼崎 彰	26
生涯教育シリーズXXIV／近年問題になっている新興・再興感染症・One Healthとしての感染症 性感染症	安田 満	28
税務相談室／医療法人	中村 孝一	31
医師のための法律相談コーナー／近時の医療判例 (34)	矢吹 徹雄、二本柳宏美	32
若手医師コーナー／Spirits 若手医師リレーエッセイ	對馬 悠介	35
若手医師コーナー／アクションズ 若手医師活動報告	黒田 敬史	36
会員のひろば	水関 清、近藤 真、浜島 泉、福原 正和、中田 智明、 今野 哲、浦澤 正三、森 泰宏、中村 一博、工藤 謙三、 伊古田俊夫、並木 昭義、大江 安男、高松 恒夫、山内 修、 吉田 貢、新 智文	38
ポラリスを仰ぐ北の大地から	上口権二郎、田中 実	52
大通公園を望む窓辺から	荒木 啓伸、吉田 茂夫	53
日本医師会生涯教育講座等開催情報		54
中央 54 道南 55 後志 56 空知 56 道北 56 北見 57 道東 57 その他 (学会・医会・研究会等) 57		
日医認定産業医制度研修会開催一覧		59
計報		60
新規指定医療機関		60
道医の動き		61
会議室／第19・20回常任理事会、第5回理事会		62
売貸医院・医師招聘情報		68
道医師国保の頁		73
季節風／コロナが明らかにした医療の実態 -合理的な思考と柔軟な決断と行動-	山科 賢児	78
お知らせ 新型コロナウイルス感染症関連情報 15／北海道医師会育児サポート事業のご案内 病児・病後児の預り 時に、ぜひご利用ください！ 24／第55回北海道ドクターズゴルフ大会開催のお知らせ (予告) 25／「 医師資格証」を持ちましょう 25／北海道の公衆衛生医師の募集 34／アクションズ若手医師活動報告投稿大 募集!! 34／訂正とお詫び 59／北海道医報ファイル 61／医師招聘に掲載をご検討中の医療機関の皆様へ 71 ／開業医誘致 美深町での開業を募集しています。 71／新型コロナウイルス感染症等感染防止対策実施 医療機関「みんなで安心マーク」の発行 72／北海道医師会医師キャリアサポート相談窓口 76／グループ 保険のご案内 77		

北海道医師会会員数 8,121名 (-5) うち日本医師会会員数 5,692名 (-17)
A 2,351名 (-6) B2 4,595名 (+2) C2 127名 (-1)
B1 626名 (+2) C1 86名 (±0) C3 336名 (-2)
令和4年12月31日現在 () 内前月比

作品紹介

きだきんじろう

木田金次郎 冬の漁港

1893 (明治26) 年～1962 (昭和37) 年

岩内町生まれ。

1960 (昭和35) 年の作品。油彩、キャンパス (65.1×80.3cm)。

15歳で上京したが、1910年家業を手伝うため岩内に戻る。漁業に従事しながら絵を続けた。その後、木田に大きな影響を与えた有島武郎と出会う。有島の小説「生まれ出づる悩み」(1918年発表)に登場する画家のモデルとして知られるようになる。1923年有島の死を契機に画業に専念。1940年代以降、地元でも画家として認められるようになる。1950年岩内町文

北海道美の遺産

写真・資料提供：北海道立函館美術館
(函館市五稜郭町37番6号 0138-56-6311)

化賞受賞。1953年木田金次郎個展第一回 (札幌)。1954年「岩内大火」により作品1,500点余りを焼失。同年北海道文化賞受賞。1957年木田金次郎油絵小品展 (北海道銀行東京支店)。同年北海道新聞文化賞受賞。1959年木田金次郎作品展 (全国巡回) で大きく評価され、木田は地方で描く自信を得る。生涯を通じて岩内の自然を描き続けた、北海道を代表する洋画家である。

◇ ◇ ◇
厳冬の海の深みや波の激しさ、荒海に乗り出す漁船の力強さを鮮烈な色彩表現で印象づける。再現的表現から離れ、感覚を重視した独自の色彩とダイナミックなタッチで描かれた本作品は、老成円熟の域に達した晩年の代表作の一つと言える。